

# 妊婦の苦勞 疑似体験

中高生 命の大切さ考える

東山で講習

中高生が妊娠や育児について学ぶ体験講習がこのほど、京都市東山区の元新道小講堂であった。参加した21人は助産師を目指す学生らの指導を受け、沐浴の仕方やおむつ交換、

重り付きジャケットを装着し、妊婦の苦勞や命の大切さを考えた。

新道児童館が赤ちゃんへの理解を深めてもらうと実施しており、今年で5回目。洛和会京都厚生学校(山科区)助産学科の学生ら約20人が協力した。中高生らは、受精の瞬間や胎児が成長するまでをまとめた映像

を鑑賞した後、2班に分かれ、重さ8キロのジャケットを装着したり大きな風船を腹部に抱えて歩いたりするなど妊婦を疑似体験した。

京都西山高3年古川貴絵さん(17)「東山区は「階段を上るのがつらく、おなかが増えて、あおむけになれなかった」と話していた。(生田和史)



重さ8キロのジャケットを着て妊婦の苦勞を疑似体験する中高生ら(京都市東山区・元新道小講堂)